

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.58



スマホを学校に持ち込む メリットとリスク

NET情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原嘉一（しのはら・かいち）

大阪府では、小中学校にスマホの持ち込みを認める方向で調整している。災害時の家族との連絡手段としての許可だが、子どもたちの意見を聞いてみると、賛成は1割もいなかった。大半はどちらでもいいという意見だ。というのも、子どもたちは持ち込むリスクを感じている。

1 学校にいる時はインターネットから離れることができ、ゲームや動画サイトがやめられない児童も学校にさえ行ってしまえば、ネットを忘れてみんなとアナログな生活ができる。一種のシエルターとしての存在となっている。

2 学校帰りに、スマホを貸すことを強要される心配。今のスマホゲームは課金と通信に使用するパケット通信の上限などの影響で、自分のスマホに制限がかかっていると友達のスマホを借りてゲームをする。無理やり持つてくるように命令されてしまう子もいるかもしれない。

そこで、学校に持って行く目的を子どもたちに理解してもらう必要がある。学校には持って

いくけれど、家に戻るまではスマホを忘れて生活ができるよう、「持たせて我慢する体験」——小中高と学校に持ち込むが校内では使用しない習慣を身に付けると、社会に出るから、勤務中にスマホに依存しない人材が育つ。もちろん、勤務でスマホを必要とする場面もあるだろうが、高校などではスマホを使う授業の時だけ、カバンから出してもいいという指導もあり、あえてスマホを持つていても、存在を忘れるような生活を体験させて社会に送り出さないと、「バイトテロ」のような人材が企業の存続を脅かす。職場に個人のスマホを持ち込めない職種もあり、我慢の経験がないと「バレなきゃいい」と隠し持ち、問題が起きている。

もらわないとわからない。持たせたことがなければ、違いを知らずに社会に出てしまう。リスクを早めに知るために、スマホを持たせるのだ。

基本的な持ち込み許可の目的として、災害時の家族間の連絡があると思うが、当初、LINEを使って家族と連絡をすることも想定されていただろうが、2019年4月から一部のスマホでLINEがフィルタリングの対象となる。フィルタリングしているとLINEが使えないということになりそう。ドコモやソフトバンク、AUなどの回線は災害が発生したエリアでは回線が混み合い、間引かれた回線はつながりづらくなる。LINEはパケットを使用して無料通話ができるため、災害時の連絡が取れやすかった。良い面もあったが、余計な人物との接点にもなるため、フィルタリングの対象となってしまう。大人の使うLINEは、LINEアプリそのものだけを使っているのだが、子どもたちはLINEアカウントを使い、新たなアプリの会員登録をしている。そのため、動画投稿を見た人物からLINEを通じて連絡がきてしまう。会えないはずの人物と簡単につながる。まさに、深夜の繁華街に無防備な子どもを歩かせるようなものだ。

災害時の連絡手段としてスマホを持たせるなら、家族との連絡手段はどうするのかを、アナログとデジタルの両面で行くつかの連絡方法を考え、家族で統一しておく必要がある。

学校にスマホを持ち込むかどうかは、これからのネット社会を上手に生きていく人材をつくるためにも必要なことかもしれない。しかし、持たせて我慢を経験させることを忘れてはいけない。